

## 第4節 非行抑止要因

この節では、少年の非行抑止要因を検討するため、現在の生活の満足度、現在の家庭の状況、現在の学校の状況、犯罪抑止理由、犯罪遂行後の未来予測、犯罪抑止を阻害する理由、の調査結果を報告する。

### 1 現在の生活の満足度

ここでは、家庭生活や学校生活、友人関係に対する満足度を尋ねた結果について述べる。回答は、それぞれの生活場面に対して、

- 1 満足している
- 2 まあ満足している
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば不満である
- 5 不満である

の中から1つを選択するよう求めた。

3つの生活場面に対して、「満足している」あるいは「まあ満足している」と答えた者を合計した割合【以下の文では「満足」と記述する】を図3-1に示した。

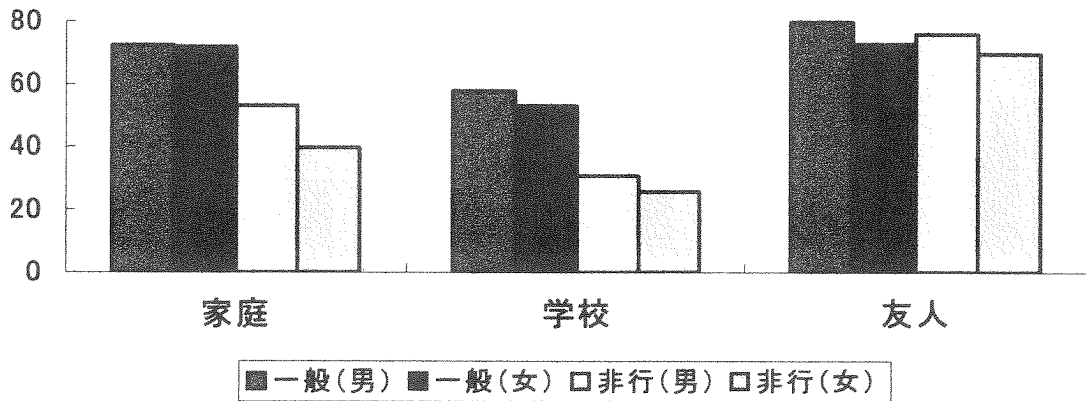
全体的にみると、一般群・非行群ともに、満足度は友人関係が最も高く、次いで、家族、学校の順となる。また、一般群と非行群の少年を比較した場合、友人関係に対して満足していると答えた者の割合は、ほぼ同程度(一般群；77.1%、非行群；76.7%)であった。しかし、家庭生活に対しては、一般群の少年の約72%が満足していると答えているのに対し非行群では約51%、学校生活に対しては、一般群が約56%に対し非行群は約39%である。

したがって、友人関係については、両群とも、家庭や学校に対してよりも高い割合の者が、ほぼ同じ程度の割合で満足していると答えているが、家庭生活や学校生活に対しては、非行群の少年の方が一般群の少年に比べ、家庭生活では約20ポイント、学校生活では約17ポイント満足していると答えている者の割合が低く、非行群の少年は一般群の少年に比べ満足していないことを示している。

それぞれの生活に対して満足しているか否かは、それぞれの生活の適応度を示していると考えられる。一般群と非行群とを比較したとき、家庭や学校生活に対して非行群の少年の方が適応していないことを示している。

また、男女別に見ると、家庭生活に対して満足していると答えた者の割合が、一般群の男子が72.4%であるのに対し女子が71.8%と同程度であった他は、一般群・非行群ともに男子の方が女子よりも満足していると答えているものの割合が高い。

図 3-1 満足度（満足・まあ満足と答えた者の割合）



## 2 現在の家庭の状況

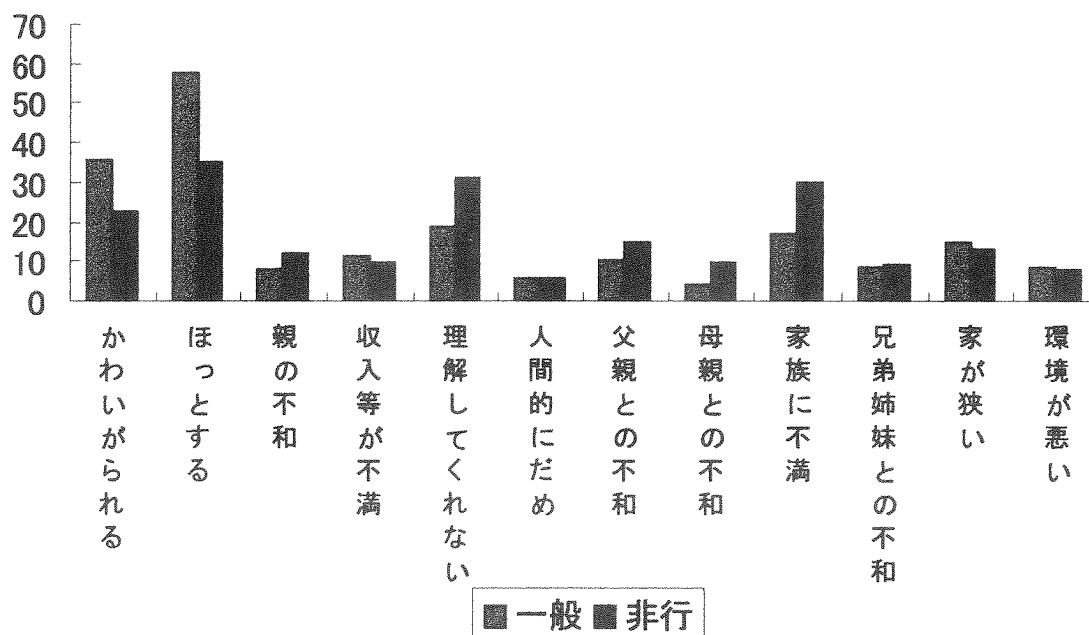
ここでは、現在、少年が自分自身の両親や家族に対して抱いている感想を尋ねた結果について述べる。

回答は、以下に示す13の感想について、当てはまるものすべてを選択するよう求めた。

- 1 親からかわいがられている【かわいがられる】
- 2 家にいるとほっとする【ほっとする】
- 3 親同士がうまくいっていない【親の不和】
- 4 親の職業や収入が不満だ【収入等が不満】
- 5 親が自分を理解してくれない【理解してくれない】
- 6 親が人間的にだめだと思う【人間的にだめ】
- 7 自分と父親とがうまくいっていない【父親との不和】
- 8 自分と母親とがうまくいっていない【母親との不和】
- 9 なんとなく家族に不満がある【なんとなく不満】
- 10 自分と兄弟姉妹との間がうまくいっていない【兄弟姉妹との不和】
- 11 家が狭すぎる【家が狭い】
- 12 家のまわりの環境が悪い【環境が悪い】
- 13 その他

結果は、図3-2に示すとおりである。

図3-2 両親や家族に対する感じ方



これをみると、一般群では、「家にいるとほっとする」と答えている者が57.5%で半数以上いるほか、「親からかわいがられている」と感じている者も35.5%で1/3を超えているなど、肯定的な感想をもっている者が多い。それに対して、非行群では、「家にいるとほっとする」と肯定的な感想もっている者が35.2%いるが、一方では、「親が自分を理解してくれない」(30.9%)や「なんとなく家族に不満がある」(30.2%)と否定的な感想をもっている者も多い。

また、一般群の少年と非行群の少年を比較すると、肯定的な感想である「家にいるとほっとする」(約22ポイント差)や「親からかわいがられている」(約13ポイント差)と答えている者の割合は、一般群の少年の方が多い。逆に、「親が自分を理解してくれない」(約12ポイント差)や「なんとなく家族に不満がある」(約13ポイント差)など、非行群の少年は一般群の少年に比べ家庭に対して否定的な感想を持っている者の割合が高い。

### 3 現在の学校の状況

ここでは、現在、少年自身が通学している学校に対して抱いている感想を尋ねた結果について述べる。

回答は、以下に示す12の感想について、当てはまるものすべてを選択するよう求

めた。

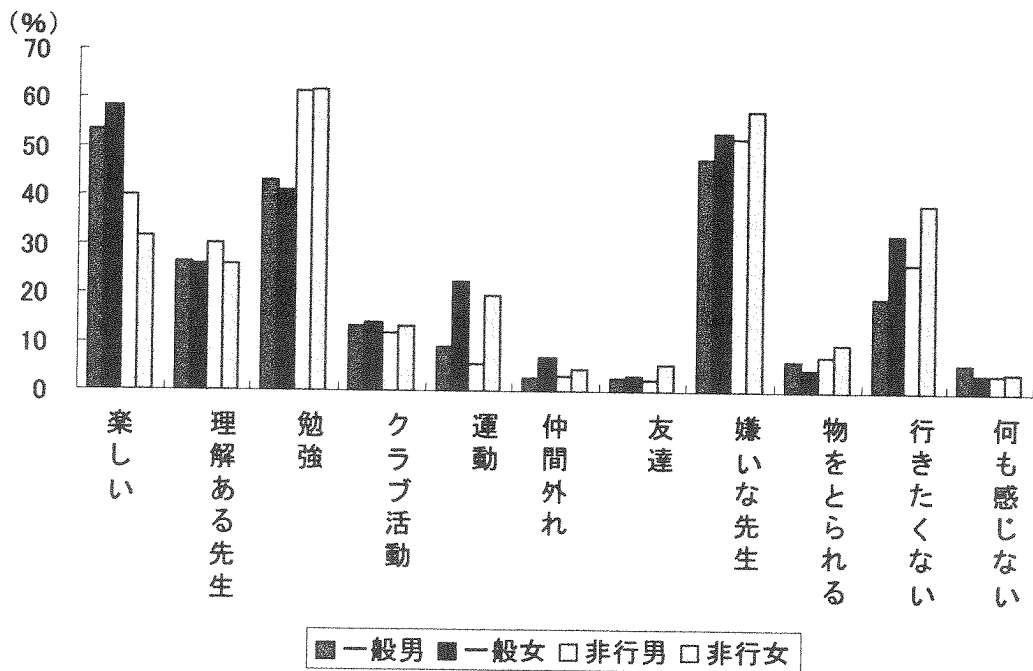
- 1 学校が楽しい【楽しい】
- 2 自分を理解してくれる先生がいる【理解ある先生】
- 3 勉強がつまらない【勉強】
- 4 クラブ活動がつまらない【クラブ活動】
- 5 運動が嫌い【運動】
- 6 友達から仲間外れにされる【仲間外れ】
- 7 友達がない【友達】
- 8 嫌いな先生がいる【嫌いな先生】
- 9 自分の持ち物を取られる【物を取られる】
- 10 なんとなく学校に行きたくない【行きたくない】
- 11 その他嫌なことがある【その他】
- 12 何も感じない【何も感じない】

結果は、図3-3に示すとおりである。

全体的にみると、「学校が楽しい」と答えた者の割合は、一般群の少年が55.4%に対して非行群は37.8%で、一般群の少年の方が「学校が楽しい」という感想を持っている。これは、「勉強がつまらない」(一般群; 42.3%・非行群; 61.7%)、「嫌いな先生がいる」(一般群; 49.9%・非行群; 53.6%)と答えた者の割合が両群とも高いが、一般群より非行群の割合の方が高いことや、その他の学校生活の面で一般群の少年の方が楽しさを見い出していると推測できること、などが背景にあると考えられる。また、「なんとなく学校に行きたくない」と答えた者が、一般群では24.5%、非行群では29.8%おり、両群とも1/4前後の者が、なんとなく学校に行きたくないと思っている。

また、男女別で比較すると、「学校が楽しい」と答えた者の割合は、一般群では女子が多く非行群では男子が多くなっているが、「嫌いな先生がいる」「学校に行きたくない」「運動が嫌い」などでは、両群とも男子よりも女子の方が割合が高い。

図3-3 学校生活に対する感じ方



#### 4 犯罪抑止理由

ここでは、「一般の少年が罪を犯さないのはなぜだと思いますか。」と尋ねた結果について述べる。

回答は、以下に示す 8 つの理由について、当てはまるものすべてを選択するよう求めた。

- 1 法律で罰せられるから
- 2 自分が困るから
- 3 家族に迷惑をかけるから
- 4 被害者に迷惑をかけるから
- 5 良心がとがめるから
- 7 恥ずかしいから
- 8 その他

結果は、図3-4に示すとおりである。

一般の少年が罪を犯さない理由として、半数以上の者が答えているのは、一般群では、「家族に迷惑がかかるから」(67.0%)「自分が困るから」(66.7%)「法律で罰せられるから」(51.9%)「良心がとがめるから」(50.8%)であり、